



### 山形便教会 ～第4回目 東根市立小田島小学校で開催～

中央教育審議会（中教審）の今年の答申によれば、「校内清掃 … 児童生徒に勤労の意義 … 有意義であるとの指摘があるが、諸外国では教師が指導を担っている例は少ない。清掃の見守りは、教員免許を必ずしも必要とする業務ではなく、『学校の業務だが、必ずしも教師が担う必要のない業務』である。」とあります。「学校の働き方改革」にあたっては、「清掃」は教師が担う必要のない業務とされているようです。

そんな中、去る9月15日（日）東根市立小田島小学校で「山形便教会」を開催いたしました。

「便教会(教師の教師による教師のためのトイレ掃除に学ぶ会)」は、平成13年に愛知県で始まり、毎年「実践報告会」には、若く熱い先生方が大勢参加されております。

私もいつか山形でも「便教会」をと願ってきましたが、平成17年春、松尾芭蕉で有名な山寺の山形市立山寺中学校の山口俊一先生との出会いから実現の運びとなりました。

いつも山形掃除に学ぶ会にご尽力いただいている小川秀人先生と山口結実先生を含む5名の先生方と、私ども世話人10名も参加して、東北初の「山形便教会」が始まったのでした。

その時参加された先生方からは、「便器に向かう距離感と生徒に向かう距離感は同じ。最初からガツガツ行くのではなく、最初はやさしく、必要なところで力を入れる、その時々に合わせて向き合わなければならない。」「今まで目をそらしてきた汚れ(子供たちとの関わり)に正面から向かう覚悟をもたなければ」などの感想をいただいたのでした。

今年の2月には、小川秀人先生の校長として最後の勤務地となった寒河江高校で開催し、参加された山形工業高校の大沼泰史先生からは、「1年6組通信 太鼓判」(クラスだより)は、「高校の同級生から声をかけられて『掃除に学ぶ会』に行ってきました。素手で便器に手を突っ込み、そこにこびりついている水垢、尿石、様々なものを取ります。当日はおよそ1時間同じ便器と向き合っていました。不思議なことにやればやるほど自分の視線が下がっていくことに、不思議な感覚になりました。そして進めば進むほど、いろんな汚れに気付くようになって、心が落ち着きました。何より、そこに集まった老若男女およそ15名の方々とお話しできたことが非常に充実した時間でした。」との感想をいただきました。大沼先生からはその後、毎日学校でトイレ掃除をしているとか…。そして野球部のマネージャーさんが「一緒にさせてもらっていいですか？」と声をかけてきたという嬉しい報告もありました。



山形便教会 山口俊一先生



この度の小田島小学校では、トイレ掃除の後、参加者の自由なディスカッションの1時間の中で、毎日先生方の子供たちに向き合ってる姿と悩みなどをお聞きすることができました。私どもは鍵山相談役の「小さく始めて大きく育てる」という教えの下で行動しておりますので、これからも山形便教会の活動に協賛して参りたいと思っております。

黒沼 範子 